

2013年6月議会 請願採択を求める討論(7月2日) 岡田ゆき子議員



**稼働率も利用者満足度も100%に近い人気施設
休養温泉ホーム松ヶ島を廃止するな**

**「廃止を含む見直し」の仕分け →
市は「老朽化を見極めながら廃止」**

7月2日の市議会本会議で「休養温泉ホーム松ヶ島を存続し、充実させることを求める」請願の採択を求め、岡田ゆき子議員が討論を行いました。

岡田議員は、休養温泉ホーム松ヶ島の利用実態について明らかにし、「存続こそ市民の願い」と指摘しました。主な内容を紹介します。

稼働率はほぼ100%、利用者満足度も100%に近い人気のある施設なのに

「松ヶ島」は高齢者、障害者、ひとり親家庭などを対象にした、低廉な料金で利用できる保健休養施設です。平成23年に実施した名古屋版事業仕分けで「廃止を含む見直し」と判定され、社会福祉審議会での議論を経て、名古屋市は、今後老朽化を見極めながら廃止すると決めました。

岡田議員は「今回の廃止は、この施設は人気がないとか、利用率が悪いであるとか、赤字を抱えているからという理由ではなく、老朽化だけが理由」と指摘し、



「市民にとって、低廉で利用しやすい施設であり、稼働率はほぼ100パーセント、利用者満足度も100%に近い人気のある施設なのに廃止するということが、市民は納得していません」と存続を求めました。

市民が納得する代替施設はない

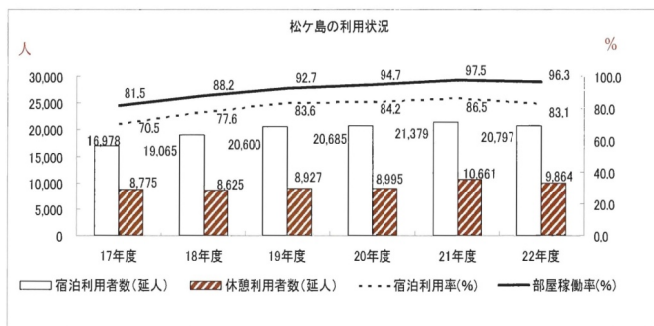
市は、本施設を廃止しても、代替施設はあるとしていますが、果たして、本施設と同等程度に低廉で利用できるのか、交通機関等問題はないのか、何よりも市民が納得した場所が必ず確保できるのかは、明らかではありませんし、まだまだ検証が必要です。

**高齢者、障害者、ひとり親世帯などが
気軽に利用できるように、存続・充実を**

施設設備の老朽化は当然の課題ですが、市民に長く愛され、現在でも人気の高い、必要な施設を、廃止と判断するのは拙速すぎます。

岡田議員は「市が高齢者、障害者、ひとり親世帯などに提供できる公的な施設として、休養温泉ホーム松ヶ島を存続し、さらに利用しやすい施設に充実させることをすすめるためにも、この請願の採択を」と呼びかけました。採決の結果は日本共産党以外のすべての議員が不採択でした。

●利用状況



区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
宿泊利用者数(延人)	16,978	19,065	20,600	20,685	21,379	20,797
宿泊利用率(%)	70.5	77.6	83.6	84.2	86.5	83.1
部屋稼働率(%)	81.5	88.2	92.7	94.7	97.5	96.3
休憩利用者数(延人)	8,775	8,625	8,927	8,995	10,661	9,864

※宿泊利用率(%)=宿泊利用者数/(定員80人×営業日数)
※部屋稼働率(%)=利用部屋数/(部屋数(24部屋)×営業日数)

**日本共産党提案の2件を含む
7件の意見書を可決**

7月2日の本会議では、意見書案の採決も行われ、5会派から出された9件の意見書(日本共産党は3件提案)のうち7件が可決されました。

日本共産党提案の意見書は「風疹の予防接種費用に関する意見書」「原発事故による被害者支援に関する意見書」です。「憲法第96条の改正に関する意見書(案)」は自民党と新政会が反対して本会議に上程できませんでした。

可決した他の意見書は次のとおり。

「南海トラフ巨大地震対策の推進に関する意見書」「観光立国の推進に関する意見書」「アレルギー疾患対策の法整備に関する意見書」「防接種の拡充に関する意見書」「給付型奨学金制度に関する意見書」